

シャレール荻窪の環境共生(生物多様性ネットワークと温熱環境の改善)



ケヤキの大木を活かした山の風景を楽しむ庭

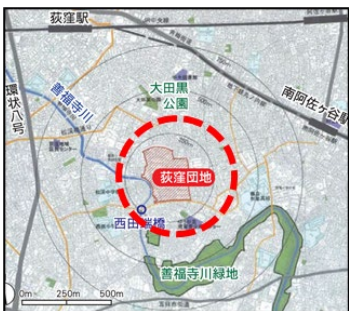


風が通り抜ける道



雨水を利用したバードパス

取組の位置



地域課題・目的

【地域課題】

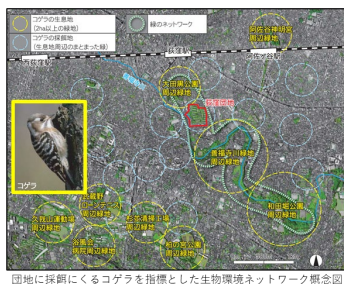
- 団地南西側を流れる善福寺川や善福寺緑地、北側の大田黒公園等の豊かな緑環境との連携
- 団地建替前の貴重な緑資源、生物環境の継承
- 市街化に伴うヒートアイランド現象の緩和

【目的】

- 荻窪団地の建替えにあたり、5つの『荻窪らしさ』を活かした環境共生
 - ① 豊かな緑にふれあえるまち：緑のネットワーク形成
 - ② 生き物が集まるまち：生物多様性の継承
 - ③ 風が通り抜けるまち：風の通り道の確保
 - ④ 涼しいまち：ヒートアイランド現象の緩和
 - ⑤ 地球にやさしく、人がふれあえるまち：環境にやさしいライフスタイルの支援

取組内容

- 生物多様性ネットワークの形成
生態系で上位に位置するコゲラを指標種に選定し、生息条件を解析。荻窪団地が緑のネットワークとなるように、現況木の保全、樹木移植、雑木林等を構成種とした緑環境を創出。
- 総合的な環境配慮
 - ① 118本の樹木を保全・移植し、豊かなみどりを継承
 - ② 芝生で屋上を緑化、ツル性植物で壁面を緑化し、建物の表面温度を低減
 - ③ 雨水地下浸透による流出の抑制、保水・透水性舗装による夏の輻射熱を抑制
 - ④ 風の通り道を活かした建物計画による熱環境の改善



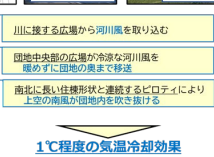
団地に採掘にくるコゲラを指標とした生物環境ネットワーク概念図

取組効果

- 温熱環境の改善
オープンスペースの効果的な配置により、風の通り道を導入することができた結果、1℃程度の気温低減の効果を確認
- 生物多様性への貢献
指標主としたコゲラの飛来をモニタリング調査で確認、今後も継続的に調査を続けていく



壁面緑化



1℃程度の気温低減効果